



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10302440 A**(43) Date of publication of application: **13 . 11 . 98**

(51) Int. Cl.

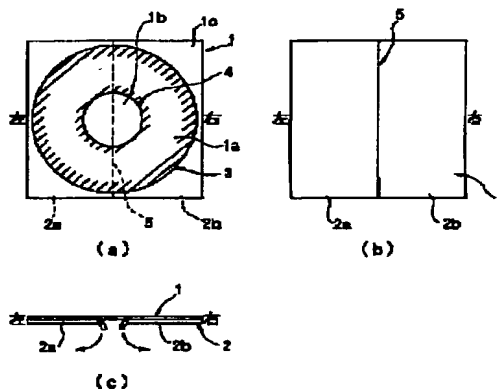
G11B 23/38
B31D 1/02
G09F 3/10

(21) Application number: **09120235**(71) Applicant: **RICOH CO LTD**(22) Date of filing: **23 . 04 . 97**(72) Inventor: **YAMAMOTO KAZUTAKA****(54) LABEL SHEET FOR OPTICAL DISK ATTACHED WITH RELEASABLE PAPER****(57) Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a label sheet for an optical disk attached with a releasable paper capable of easily adhering the label to the optical disk without using a jig.

SOLUTION: In the label sheet 1 for the optical disk attached with the releasable paper, which is constituted of the label 1a applied with an adhesive on the rear face and the releasable paper 2 adhered on the rear face of the label while covering the whole adhesive face, the label 1a is formed to the doughnut state with the outside diameter smaller than the diameter of the optical disk objective to adhere, and on the releasable paper 2, a linear cutting line 5 vertically splitting the releasable paper 2 is arranged, then the doughnut stated label 1a is adhered on the releasable paper by facing the adhesive face side toward the releasable paper side.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-302440

(43)公開日 平成10年(1998)11月13日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

G 1 1 B 23/38

G 1 1 B 23/38

A

B 3 1 D 1/02

B 3 1 D 1/02

A

G 0 9 F 3/10

G 0 9 F 3/10

B

審査請求 未請求 請求項の数10 F D (全 10 頁)

(21)出願番号 特願平9-120235

(22)出願日 平成9年(1997)4月23日

(71)出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72)発明者 山本 和孝

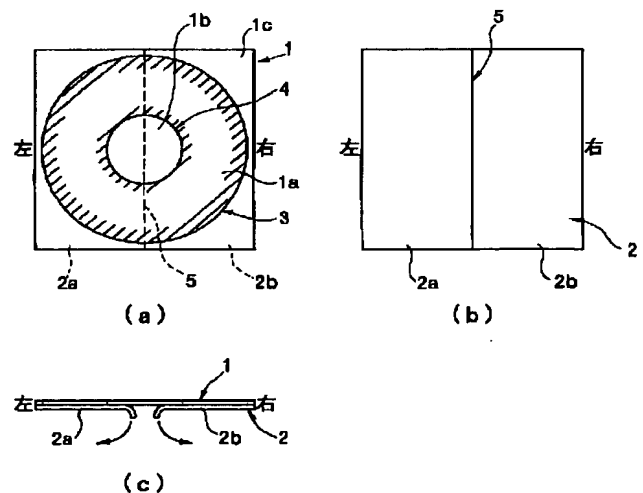
東京都大田区中馬込一丁目3番6号 株式
会社リコー内

(54)【発明の名称】 光ディスク用剥離紙付きラベルシート

(57)【要約】

【課題】 治具を使うことなく、光ディスクに容易にラベルを貼り付けることができる光ディスク用剥離紙付きラベルシートを提供する。

【解決手段】 裏面に粘着材を塗ったラベル1aと、該粘着面全体を覆ってラベル裏面に貼着した剥離紙2とから構成された光ディスク用剥離紙付きラベルシート1において、上記ラベルは、貼り付け対象となる光ディスクの直径よりも小さい外径を有するドーナツ状であり、上記剥離紙は、剥離紙を縦断する直線状の切れ目5を有し、ドーナツ状のラベルを、その粘着面側を剥離紙側に向けて剥離紙上に貼り付けた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 裏面に粘着材を塗ったラベルと、該粘着面全体を覆ってラベル裏面に貼着した剥離紙とから構成された光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記ラベルは、貼り付け対象となる光ディスクの直径よりも小さい外径を有するドーナツ状であり、上記剥離紙は、剥離紙を縦断する直線状の切れ目を有し、

上記ドーナツ状のラベルを、その粘着面側を剥離紙側に向けて剥離紙上に貼り付けたことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項2】 請求項1の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、

上記剥離紙を、貼り付け対象となる光ディスクの直径に等しい長さの辺を有する正方形としたことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項3】 裏面に粘着材を塗ったラベルシートと、該粘着面全体を覆ってラベル裏面に貼着した剥離紙とから構成された光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、

上記剥離紙を貼り付け対象となる光ディスクの直径に等しい辺を有する正方形とし、且つ剥離紙を縦断する直線状切れ目を形成し、

上記ラベルシートを上記剥離紙と同形同サイズとし、上記ラベルシート内には、二つの円状切れ目が同心円状に形成されていることを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項4】 請求項3の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記剥離紙に設けた直線状切れ目の中央部を、上記ラベルシートの内側の円状切れ目に沿った半円状に形成したことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項5】 請求項3の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記ラベルシートの内側の円状切れ目の内側部分および外側の円状切れ目の外側部分を夫々縦断するように、剥離紙の直線状切れ目に沿った直線状切れ目をラベルシートに形成したことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項6】 請求項3乃至請求項5の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記剥離紙の4隅に4隅を切り離し可能にする切れ目を設け、上記ラベルシートの4隅に4隅を切り離し可能にするミシン目状切り取り線を設けたことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項7】 請求項3乃至請求項6の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記ラベルシートと剥離紙の少なくとも一方の周辺部に、切り取り可能なプリント用余白部を設けたことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項8】 請求項7の光ディスク用剥離紙付きラベ

ルシートにおいて、互いに平行な上記ラベルシートの直線状切れ目と剥離紙の直線状切れ目の位置をずらした構成にしたことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項9】 請求項7または請求項8の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記ラベルシート、または／および、剥離紙のプリント用余白部に光ディスクへのラベル貼り付けのための位置決め用穴を設けたことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【請求項10】 請求項7乃至請求項9の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、ラベルシートのプリント用余白部内に光ディスクケース用背ラベルを配設したことを特徴とする光ディスク用剥離紙付きラベルシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は裏面に粘着材を塗ったラベルまたはラベルシートと粘着面を覆う剥離紙とから構成された光ディスク用剥離紙付きラベルシートに係わり、特に治具なしで光ディスク面に容易にラベルを貼り付けることを可能にした光ディスク用剥離紙付きラベルシートに関する。

【0002】

【従来の技術】コンパクトディスク（以下、CDと称す）を利用者が用いる際には、カートリッジに収納されていない裸の状態で扱われる。このようなCDには、本来、予め情報が記録されており、記録されている情報の内容を標記したラベルがその背面（記録面と反対の面）に貼り付けられている。スタンプCDと呼ばれている上記のようなCDの他に、近年では、予め情報が記録されておらず、利用者が所望の情報を自ら記録するCD-Rと呼ばれるCDも普及し始めた。このCD-RはスタンプCDと同一のフォーマットで記録でき、一般の音楽用プレーヤやCD-ROM駆動装置で再生できるため、CDの少量配布やスタンプCD制作前のプレテストや個人の大量データ保管用などとして期待されている。しかしながら、CD-RはスタンプCDと比べてラベルの見栄えという点において著しく劣り、且つラベルの記載情報量が少なくて利用者に不便を感じさせているのが実情である。上記のような、CD-Rのラベルに係わる見栄えの悪さといった問題は、CD-R提供者が空欄を設けただけのラベルをCD-Rに予め貼り付けて提供し、そのラベルのタイトル欄などに利用者が手書きするように構成されている点に原因がある。したがって、このような問題は、CD-Rを提供する際にラベルをCD-Rに貼り付けない分離した状態で提供し、カラープリンタなどにより利用者がラベルへの記入を行った上で、そのラベルを利用者がCD-Rに貼り付けることを可能にすることによって解決する。特開平5-166339号公報に示された光ディスク用ラベル貼り付け治具は上記のようなラベル

貼り付けに用いることができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の特開平5-166339号公報に示された従来技術では、ラベル貼り付けのために治具が必要になるため、治具の購入、使用のためのコストアップ、手間の増大という問題が起き、利用者に敬遠され易くなっている。本発明の課題は、上記のような従来技術の問題を解決し、治具を使うことなく、光ディスクに容易にラベルを貼り付けることができる光ディスク用剥離紙付きラベルシートを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、請求項1記載の発明では、裏面に粘着材を塗ったラベルと、該粘着面全体を覆ってラベル裏面に貼着した剥離紙とから構成された光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記ラベルは、貼り付け対象となる光ディスクの直径よりも小さい外径を有するドーナツ状であり、上記剥離紙は、剥離紙を縦断する直線状の切れ目を有し、上記ドーナツ状のラベルを、その粘着面側を剥離紙側に向けて剥離紙上に貼り付けたことを特徴とする。請求項2の発明は、請求項1の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記剥離紙を、貼り付け対象となる光ディスクの直径に等しい長さの辺を有する正方形としたことを特徴とする。請求項3の発明は、裏面に粘着材を塗ったラベルシートと、該粘着面全体を覆ってラベル裏面に貼着した剥離紙とから構成された光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記剥離紙を貼り付け対象となる光ディスクの直径に等しい辺を有する正方形とし、且つ剥離紙を縦断する直線状切れ目を形成し、上記ラベルシートを上記剥離紙と同形同サイズとし、上記ラベルシート内には、二つの円状切れ目が同心円状に形成されていることを特徴とする。請求項4の発明は、請求項3の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記剥離紙に設けた直線状切れ目の中央部を、上記ラベルシートの内側の円状切れ目に沿った半円状に形成したことを特徴とする。請求項5の発明は、請求項3の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記ラベルシートの内側の円状切れ目の内側部分および外側の円状切れ目の外側部分を夫々縦断するように、剥離紙の直線状切れ目に沿った直線状切れ目をラベルシートに形成したことを特徴とする。請求項6の発明は、請求項3乃至請求項5の光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、上記剥離紙の4隅に4隅を切り離し可能にする切れ目を設け、上記ラベルシートの4隅に4隅を切り離し可能にするミシン目状切り取り線を設けたことを特徴とする。請求項7記載の発明は、上記において、ラベルシートまたはおよび剥離紙の周辺部に、切り取り可能なプリント用余白部を設けたことを特徴とする。請求項8記載の発明は、上記において、ラベルシ

トの直線状切れ目と剥離紙の直線状切れ目とをずらした構成にしたことを特徴とする。請求項9記載の発明は、上記において、ラベルシートまたはおよび剥離紙のプリント用余白部に光ディスクへのラベル貼り付けのための位置決め用穴を設けたことを特徴とする。また、請求項10記載の発明は、上記において、ラベルシートのプリント用余白部に光ディスクケース用背ラベルを配設したことを特徴とする。

【0005】

【作用】上記のように、請求項1記載の発明では、剥離紙を下にして光ディスク用剥離紙付きラベルシートを光ディスクの裏面に載せ、剥離紙の切れ目の片側（切れ目の左右の大きさが同じでない場合は小さい側）で上記光ディスク用剥離紙付きラベルシートを上方から押さえ、押さえられていない側を上方に持ち上げて剥離紙の切れ目の片側をはがし、続いて他の側について同様の手順により剥離紙をはがすことにより、ラベルを光ディスクに貼り付けることができる。請求項2記載の発明では、ラベルシートが光ディスクの直径と等しい辺を有する正方形であるので、ラベルを容易に光ディスクの中心に貼り付けることができる。請求項3記載の発明では、光ディスク用剥離紙付きラベルシートの提供者は、ラベルシートに対する剥離紙の貼合せ作業を容易化することができ、また利用者はラベルを容易に光ディスクの中心に貼り付けることができる。請求項4記載の発明では、上記において、ラベル貼り付けの際、ラベルシートの内側の余分な部分をはがす作業が省ける。請求項5記載の発明では、上記において、ラベルシートの外側の余分な部分をはがす作業も省ける。請求項6記載の発明では、ラベルシートの四隅に所定の範囲に互って粘着面を露出させるようにしたので、光ディスク用剥離紙付きラベルシートをプリンタのプリント用紙などに貼り付けた状態でプリンタによるラベル内容作成が可能になる。請求項7記載の発明では、プリンタにセットして紙送り、印字する際のマージンとしての余白をラベルシートの周辺に設けたので、プリンタによるラベル内容作成を行う際、ラベルシート内の周辺部にもプリントが可能になる。請求項8記載の発明では、プリンタによるラベル内容作成を行う際、切れ目部分での折れ曲がり、めくれが減少するので、ジャム等の搬送不良や印字不良を防止できる。請求項9記載の発明では、余白部分とラベルシート本体との境目に目視用の穴を形成したので、光ディスク用剥離紙付きラベルシートを光ディスクに貼り付ける際に、周辺の余白部を事前に切り離す作業を省くことができる。請求項10記載の発明では、ラベルシートのプリント用余白部に光ディスクケース用背ラベルを配設したので、格別の背ラベルを製造することなく、背ラベルを提供することができる。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、図面により本発明の実施の

形態を詳細に説明する。図1(a)(b)及び(c)は本発明の第1の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上図(ラベル側)図、底面(剥離紙側)図、及び断面図である。なお、(b)は(a)のラベルシートの上辺を回転軸として180度回転させた底面図である。図示したように、この形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシート(以下、剥離紙付きラベルシートと略す)は、正方形のラベルシート1と、ラベルシート1と同形状同サイズの剥離紙2とから構成されている。つまり、ラベルシート1の片面は粘着材が塗られた粘着面であり、この粘着面を全面的に覆うように剥離紙が密着整合して貼り付けられている。上記ラベルシート1には、同心円状に二つの円状切れ目3、4が設けられており、この二つの円状切れ目(切断線)3、4により挟まれている部分がラベル1aになる。なお、正方形の一辺の長さは、貼り付け対象となる光ディスクの直径に等しく設定する。また、外側の円状切れ目3の直径は光ディスクの直径よりも若干小さく、内側の円状切れ目4の直径は、ラベル部分1aの内径が光ディスクのクランパ部分(中央部の穴)に干渉しない大きさになっている。また、剥離紙2には直線状の切れ目5が設けられている。この形態例では、上記直線状の切れ目5は、対向し合う2つの辺の中心を結ぶ直線である為、剥離紙2の中心を通り、且つ他の2つの辺と平行になっている。図1(c)に示したように、この切れ目5の箇所から矢印fの方向に剥離紙2をはがすことができる。なお、切れ目5は、対角線に沿って延びる線であってもよい。なお、特許請求の範囲に於て、縦断とは、切れ目がラベルシート、或は剥離紙を縦断(一方の辺から対向する他方の辺にかけて延在)する場合のみならず横断、斜め横断等々、全長、全幅に互って延在している場合を全て含む。また、各切れ目5、8は直線状であることが原則であるが、多少の湾曲、屈曲等の変形は、直線状の範囲に含まれるものである。

【0007】以下、図2に従って、光ディスクへのラベル貼り付け作業を説明する。まず、ラベルシート1の内側部分1bおよび外側部分1cを剥離紙2から除去してラベル1aだけが残った状態とした上で、剥離紙側が下になるように、且つ剥離紙2の各辺が光ディスク6の接線となるように、ラベル1aだけの貼り付いた剥離紙2を光ディスク6上に置く(S1)。続いて、剥離紙2の切れ目5の一方側、例えば左半分2aを矢印fのように上から左手で押さえ付けた状態で、右手により剥離紙2の右半分2bを持ち上げ、剥離紙2の切れ目5の右側部分をラベル1aから矢印fのようにはがす(S2)。そして、左手は上記左半分を押さえたまま、右半分と光ディスク6との間に気泡やしわが形成されないように、中心から右に向かって(矢印gで示す)右手で押さえ、ラベル1aの右半分を光ディスク6に貼り付ける(S3)。次に、光ディスク6に貼り付けられたラベル1aの右半部分を右手により上から押さえつつ(S4に矢印fで示す)、左手により

剥離紙2の左半分を持ち上げ、剥離紙2の切れ目5の左側部分をラベル1aから矢印fのようにはがす(S4)。そして、右手は上記右半分を押さえたまま、中心から左に向かって(矢印gで示す)左手で押さえ付け、ラベル1aの左半分を光ディスク6に貼り付ける(S5)。この形態例によれば、ドーナツ状のラベル1aを光ディスクの真ん中に貼り付けることができる。なお、ラベルシート1の内側部分1bや外側部分1cが取り除かれたラベル1aだけを剥離紙2に貼り付けた状態にある剥離紙付きラベルシートを、利用者に提供することも可能である。この場合は、上記のように、利用者が内側部分1bや外側部分1cを取り除く作業がなくなるので作業性が更に向上する。また、ラベルシート1および剥離紙2の形状は、正方形のみに限定されない。例えば、六角形、八角形等の多角形、円形等々であってもよい。

【0008】図3(a)及び(b)は本発明の第2の形態例を示す剥離紙付きラベルシートの上図及び底面図である。図示したように、この形態例の剥離紙付きラベルシートの剥離紙2では、第1の形態例に示した切れ目5が直線であったのに対して、切れ目の中央部がラベルシート1の内側の円状切れ目4に沿った半円を成す切れ目5aになっている。この形態例によれば、第1の形態例においてラベル貼り付けに先立って行ったラベルシート1の内側部分1bの除去作業を省くことができる。つまり、この形態例では、図2に示したステップS2において、剥離紙2の左半分2aをはがすとき、全面がそれに貼り付いている内側部分1bも一緒に取り除かれるので、内側部分1bだけを事前に剥離する必要がない。

【0009】図4(a)及び(b)は本発明の第3の形態例の剥離紙付きラベルシートの上図及び底面図である。図示したように、この形態例のラベルシート1には、剥離紙2の切れ目5に沿って(重なって)、内側部分1bを切断するための直線状切れ目7が設けられ、更に剥離紙2の切れ目5に沿って(重なって)外側部分1cを切断するための直線状切れ目8が設けられる。この形態例では、第1の形態例においてラベル貼り付けに先立って行ったラベルシート1の内側部分1b及び外側部分1cの除去作業を省くことができる。つまり、この形態例では、図2に示したステップS2において、剥離紙2の右半分2bをはがすとき、それに貼り付いている内側部分1bの右半分1bR及び外側部分1cの右半分1cRも一緒に取り除かれ、図2に示したステップS4において、剥離紙2の左半分2aをはがすとき、それに貼り付いている内側部分1bの残り左半分1bL及び外側部分1cの残り左半分1cLも一緒に取り除かれるのである。この為、剥離作業性が向上する。

【0010】図5(a)及び(b)は本発明の第4の形態例の剥離紙付きラベルシートの上図及び底面図である。図示したように、この形態例の剥離紙2の切れ目5の位置は中心からずれており、切れ目5と一致する外側部分

1c内に、第3の形態例で示したラベルシート1の外側部分1c内の切れ目8に相当する切れ目8を形成している。これにより、図2の手順にて貼り付け作業を行う際に、剥離紙2を最初にはがす右半分2bの面積が小さくなると共に、内側部分1b内に切れ目7を設けなくても内側部分1b及び外側部分1cを個別に取り除く作業を省くことができる。つまり、内側部分1bは左半分2aを剥離する際に一挙に剥離され、外側部分1cは右半分2b及び左半分2aを剥離する際に夫々剥離される。なお、この形態例では、剥離紙2の2度目にはがす部分2aの面積が大きくなるが、最初にはがす部分の面積が小さい方が作業し易いという利用者に適する。同様の理由により、第1の形態例において切れ目5の位置を中心からずらした構成も有効である。つまり、外側部分1cに切れ目8を設けない図1の形態例に於て、切れ目5を中心からずれた位置に偏位させて形成することにより、初めに剥す部分の面積が小さくなるので、作業性が向上する。

【0011】図6(a)(b)及び(c)は本発明の第5の形態例の剥離紙付きラベルシートの上面図、底面図、及び説明図である。図示したように、この形態例のラベルシート1の4隅には予め、斜めの、ミシン目状の切り取り線9を設け、剥離紙2の4隅には、各切り取り線9と重なる様に4隅を切断するための切れ目10を設けている。なお、ラベルシート1と剥離紙2を重ねたとき、切り取り線9と切れ目10も重なった状態となっている。なお、図4の形態例と同一部分には同一符号を付してある。この形態例では、プリンタを用いたラベル記載内容の作成の際、予め切れ目10から三角形状の剥離紙部分を剥離してラベルシート1の粘着面(4つの三角形状の角隅部)を露出させた状態で、剥離紙付きラベルシートをプリント用紙上に貼り付け可能にしている。なお、このようにプリント用紙上に貼り付けることにより、後述のようにプリント位置合わせが容易になる。ラベルはプリント欄が小さいため、ワードプロセッサやパーソナルコンピュータにおける文書作成時などに比べ、より正確なプリント位置合わせを要求されるが、この形態例の手法によれば、正確なプリント位置合わせが可能になる。

【0012】以下、図7に示す作業フローに従って、この形態例の作業フローを説明する。まず、パーソナルコンピュータなどにより、ラベルへプリントする内容をデザインし(S11)、それを台紙(プリント用紙)11に仮プリントする(S12)(図6(c)参照)。次に、剥離紙付きラベルシートの剥離紙2の4隅を剥して除去し(切れ目10はこのために設けてある)(S13)、剥離紙付きラベルシートを台紙11上の仮プリント位置12(図6(c)参照)に位置合わせして貼り付ける(S14)。ラベルシート1の4隅の粘着面が露出していることにより、貼り付けが可能になるわけである。この仮プリント位置12を手掛かりにして、その上に整合する様にラベルシート1を重ねて位置決めすることにより、後述する本番のプ

リントにおいても仮プリント位置12と同じ位置にプリントがなされることとなる。続いて、台紙上のラベルシート1に本番のプリントを行う(S15)。この本番のプリントも仮プリント位置12と全く同じ位置にプリントされるのであるが、その位置には位置合わせせられたラベルシート1があるので、ラベルシート1上の正確な位置にプリントが行われるのである。プリント後は、切り取り線9に沿ってラベルシートを切断して三角形状部分を台紙11に残して剥離紙付きラベルシート本体を台紙11から分離する(S16)。つまり、台紙11に貼り付けられたラベルシート1の4隅を切り取り線9から手で切り離すことにより、同じく4隅がカットされた剥離紙とともに台紙から分離されることとなる。以下、形態例1の場合と同様にして(図2参照)光ディスクへのラベル貼り付けを行う(S17)。従来は、ラベルへのプリントの際、何度も仮プリントを行って位置合わせをしていたが、この形態例によれば、上記のように、ただ1度の仮プリントを行うだけで正確な位置にプリントできるのである。なお、この形態例に示した4隅に切り取り線9と切れ目10を形成する構成は、図4に示した形態例のみならず、上述した他の全ての形態例にも適用することができる。

【0013】図8(a)及び(b)は本発明の第6の形態例の剥離紙付きラベルシートの上面図及び底面図((a)の右边を軸として180度回転させた裏面図)である。図8(b)の底面図は、上記各形態例の底面図とは異なり、左右が(a)の上面図と逆になっている(この点は、図9、図11、図12、図13においても同様である)。図示したように、この形態例の剥離紙付きラベルシートは、第1乃至第5の各形態例に対して夫々適用することができ、各形態例の構成に加えて四角いラベルシート1の周辺にプリント用余白部13aを備え、ラベルシート1の裏面に貼り付けられた剥離紙2の周辺にもプリント用余白部13bを備える。このようなプリント用余白部13(13a, 13b)を備えることにより、剥離紙付きラベルシートの縁を合わせて位置決めを行っても、ラベル1aのどの位置にもプリントを行うことができる。一般に、プリンタ(プロッタ)は、プリント用紙の周辺の幅5mm~20mmの部分にはプリントできないようになっているので、上記のようなプリント用余白部13を設けない場合には、ラベルシート1の縁部から幅5mm~20mmの範囲内にプリントすることができなくなる。なお、多くのプリンタは左端を基準にプリント開始するので、ラベルシートの右端側についてはぎりぎりの位置までプリントが可能であり、右側周辺のプリント用余白部は不要であるので、図8に示した形態例では右側周辺のプリント用余白部を省いている。上下の余白は、紙送り等に必要なマージンである。

【0014】図8は図5の形態例に適用した例を示しているが、この形態例は他の全ての形態例に対しても適用

することができる。上記のようなプリント用余白部13を設けると、そのままではCDケースに剥離紙付きラベルシートを収納できないので、収納時には、図9に示すように折り曲げ線（切り取り線）L1、L2、L3からプリント用余白部13を裏側へ折り曲げる。なお、図9(a)は上面図、図9(b)は底面図である。以下、図10に示す作業フロー図に従って、この形態例の作業フローを説明する。まず、剥離紙付きラベルシートをCDケースから取り出し（S21）、プリント用余白部13を広げる（S22）。そして、広げた剥離紙付きラベルシートをプリンタにセットする（S23）。このとき、例えば、図8(a)のような状態で、上側のプリント用余白部13の上縁をプリンタの用紙セット部の上側基準線に合わせ、左側のプリント用余白部13の左縁を左側基準線に合わせる。こうして、セットされた剥離紙付きラベルシートにラベル記載内容をプリントする（S24）。次に、ラベルプリントが済んだ剥離紙付きラベルシートをプリンタからはずし、プリント用余白部13をラベルシート本体から手で切り離す（S25）。なお、プリント用余白部13と剥離紙付きラベルシート本体との境界には、例えばミシン目状の切り取り線（図示していない）が設けられている。この後は、前記のようにして光ディスクへのラベル貼り付けを行う（S26）。なお、この形態例において、プリント用余白部をラベルシート1または剥離紙2のいずれか一方にだけ設ける構成も可能である。

【0015】図11(a)(b)及び(c)は本発明の第7の形態例の剥離紙付きラベルシートの上面図、断面図（肉厚は誇張して大きめに描いてある）及び底面図である。図示したように、この形態例の剥離紙付きラベルシートでは、第6の形態例におけるラベルシート1の切れ目8の位置と剥離紙2の切れ目5の位置とをずらしている。切れ目5と切れ目8とが重なっていると、この切れ目部分5、8を中心としてラベルシート及び剥離紙が折れ易くなり、プリント時に紙送りと、印字に支障を来すことがあるが、このように両切れ目をずらしておけば、折れることがないので、ジャムや印字不良等がなくなり、プリント作業を円滑に行うことが可能になる。また、この折れ易さに起因して、面積の小さい側の剥離紙の一部がめくれあがったり、ラベルシートから不用意にはがれてしまうが、このようにずらすことによりこの不具合を防ぐことができる。

【0016】図12(a)及び(b)は本発明の第8の形態例の剥離紙付きラベルシートの上面図、及び底面図である。図示したように、この形態例の剥離紙付きラベルシートでは、第6の形態例における各プリント用余白部13a、13b内の光ディスク接点位置（光ディスクの外周縁に対応する位置＝正方形のラベルシート1の外周縁部、よりも外側位置）に位置決め用穴14a、14bを設けている。なお、各位置決め用穴14aは対向する位置決め用穴14bに重なっている。つまり、両穴14a、14bは連通状態にあ

る。この形態例によれば、ラベル貼り付けの際、プリント用余白部13が付いたままであっても、穴14a、14bを利用して剥離紙付きラベルシートを光ディスク上に位置付けることが可能となり、しかも、剥離紙2をはがすとき、プリント用余白部13が剥離紙2と一緒にラベル1aから取り除かれる。つまり、図8の形態例では、余白部13がラベルシートについての状態では、ラベルシートを光ディスクの外周縁に合わせて位置合わせを行うことができないため、余白部を除去する必要があったが、この形態例では、穴14a、14bを通して光ディスクの外周縁の位置を確認できるので、余白部を付けたまま位置合わせを行い、剥離紙を剥す際に余白部を同時に剥すことができる。

【0017】図13(a)及び(b)は本発明の第9の形態例の剥離紙付きラベルシートの上面図及び底面図である。図示したように、この形態例の剥離紙付きラベルシートでは、第6の形態例におけるラベルシート1の一つのプリント用余白部13a内に、光ディスクケース（CDケース）用背ラベル15を組み込んでおき、背ラベル15を剥離可能に構成する。背ラベル15を余白部から剥離した場合には、その裏面に粘着材がついているので、ケースに貼り付けることができる。市販されている音楽CDなど内容が確定しているスタンプCDの場合、利用者は予めCDケースに背ラベルがはめ込まれた状態で購入するが、CD-Rの場合は、内容未定のため光ディスクに貼るラベル同様に他の方法によらねばならない。その方法の一つは、記入欄のみ印刷された背ラベルをCDケースにはめ込んで利用者に提供し、利用者がその背ラベルを取り出して記入し、再びCDケースにはめ込むことである。しかし、この方法では、背ラベルの出し入れが困難である。これに対して、本発明による背ラベルを用いるならば、背ラベル分の材料費が発生しないし、CDケースに貼り付ける方法であるので、作業も容易である。なお、背ラベル幅は6mm程度であるが、本発明の場合、図13(a)のような状態でプリントするわけであるから、手書きとは異なり、判読可能な文字記載が可能になる。しかも、ラベル1aと同一ラベルシート上に記載するので作業効率も良い。図13に示した形態例の構成は、図12の形態例のみならず、図8、図11に示した他の形態例の構成と組み合わせて適用することができる。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1記載の発明では、ラベルシートに剥離紙を貼りつけた光ディスク用剥離紙付きラベルシートにおいて、剥離紙を下向きにして光ディスク用剥離紙付きラベルシートを光ディスクの裏面上に載せ、剥離紙を縦断する切れ目の片側（切れ目の左右の大きさが同じでない場合は小さい側）に位置する剥離紙部分を光ディスクの裏面に当てて光ディスク用剥離紙付きラベルシートを上方から押さえ、押さえられていない側の剥離紙部分を上方に持ち上げて剥離紙の

切れ目の片側をはがし、続いて他の側について同様の手順により剥離紙をはがすことにより、ラベルを光ディスクに貼り付けることができるので、治具を使用せずに、利用者がラベルを容易に光ディスクに貼り付けることが可能になる。また、請求項2記載の発明では、ラベルシートが光ディスクの直径と等しい辺を有する正方形であるので、ラベルを容易に光ディスクの中心に貼り付けることができる。請求項3記載の発明では、光ディスク用剥離紙付きラベルシートの提供者は、ラベルシートに対する剥離紙の貼合せ作業を容易化することができ、また利用者はラベルを容易に光ディスクの中心に貼り付けることができる。請求項4記載の発明では、上記において、ラベル貼り付けの際、ラベルシートの内側の余分な部分をはがす作業が省ける。請求項5記載の発明では、上記において、ラベルシートの外側の余分な部分をはがす作業も省ける。

【0019】請求項6記載の発明では、ラベルシートの四隅に所定の範囲に互って粘着面を露出させるようにしたので、光ディスク用剥離紙付きラベルシートをプリンタのプリント用紙などに貼り付けた状態でプリンタによるラベル内容作成が可能になる。つまり、光ディスク用剥離紙付きラベルシートをプリンタのプリント用紙などに貼り付けた状態でプリンタによるラベル内容作成が可能になるので、上記プリント用紙に仮プリントし、その仮プリント位置に光ディスク用剥離紙付きラベルシートを貼り合わせることにより、ラベルプリントの際の位置決めが容易になる。請求項7記載の発明では、プリンタにセットして紙送り、印字する際のマージンとしての余白をラベルシートの周辺に設けたので、プリンタによるラベル内容作成を行う際、ラベル内のどの位置にもプリントが可能になる。請求項8記載の発明では、プリンタによるラベル内容作成を行う際、切れ目部分での折れ曲がり、めくれが減少するので、ジャム等の搬送不良や印字不良を防止できる。また、請求項9記載の発明では、上記において、光ディスク用剥離紙付きラベルシート周辺の余白部を切り離す作業を省くことができる。また、請求項10記載の発明では、上記において、ラベルシートのプリント用余白部に光ディスクケース用背ラベルを配設することができるので、背ラベル分の材料費を節約で*

* きるし、背ラベル作成の作業時間も短縮できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a) (b) 及び(c) は本発明の第1の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図、底面図、及び正面図。

【図2】(S1) ~ (S5) は、本発明の第1の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートに係わる作業フロー図。

【図3】(a) 及び(b) は本発明の第2の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図、及び底面図。

【図4】(a) 及び(b) は本発明の第3の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図及び底面図。

【図5】(a) 及び(b) は本発明の第4の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図及び底面図。

【図6】(a) (b) 及び(c) は本発明の第5の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図、底面図、及びプリント手順の説明図。

【図7】本発明の第5の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートに係わる作業フロー図である。

【図8】(a) 及び(b) は本発明の第6の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図、及び底面図。

【図9】(a) 及び(b) 本発明の第6の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの折りたたみ状態を示す上面図、及び底面図。

【図10】本発明の第6の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートに係わる作業フロー図である。

【図11】(a) (b) 及び(c) は本発明の第7の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図、及び底面図。

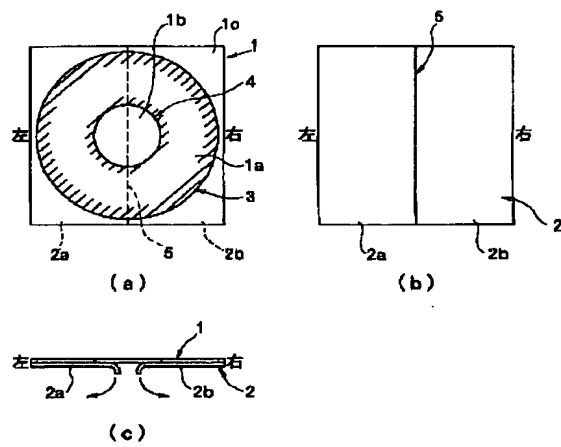
【図12】(a) 及び(b) は本発明の第8の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図及び底面図。

【図13】(a) 及び(b) は本発明の第9の形態例の光ディスク用剥離紙付きラベルシートの上面図、及び底面図。

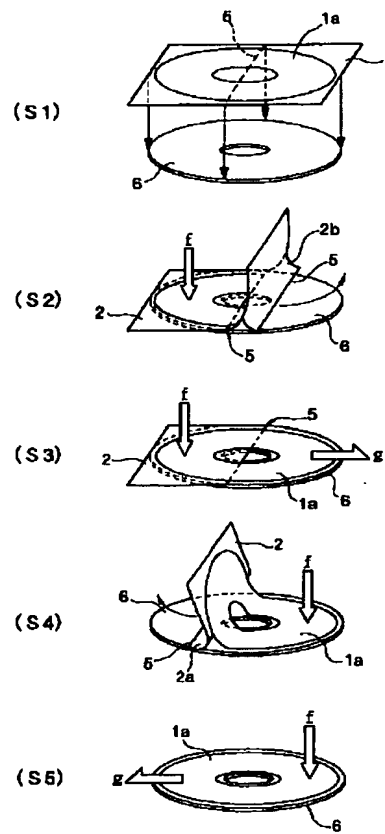
【符号の説明】

1 ラベルシート、2 剥離紙、3 円状切れ目、4 円状切れ目、5 切れ目、6 光ディスク、9 切り取り線、10 切れ目、11 台紙（プリント用紙）、13 プリント用余白部、14 位置決め用穴、15 背ラベル

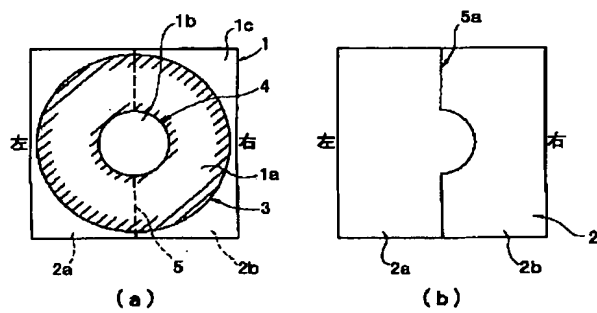
【図1】



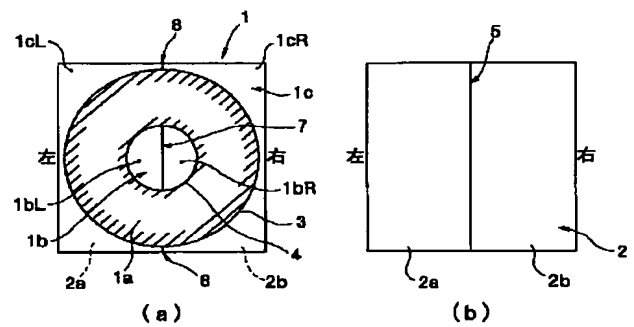
【図2】



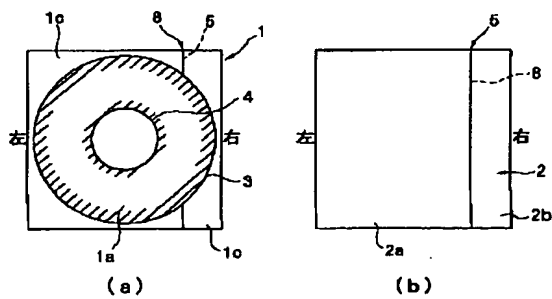
【図3】



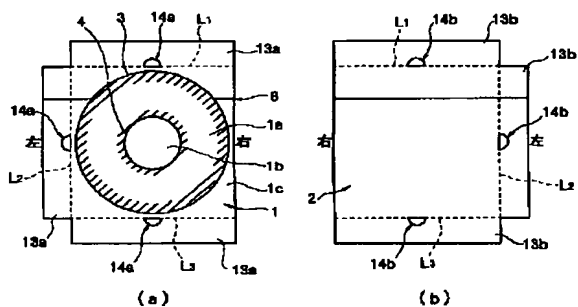
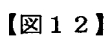
【図4】



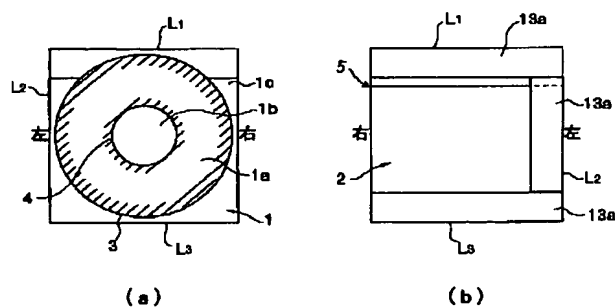
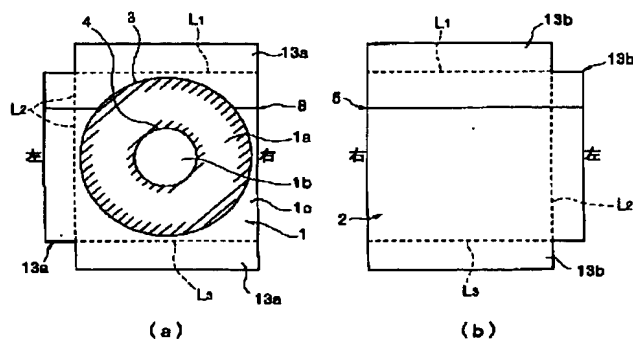
【図5】



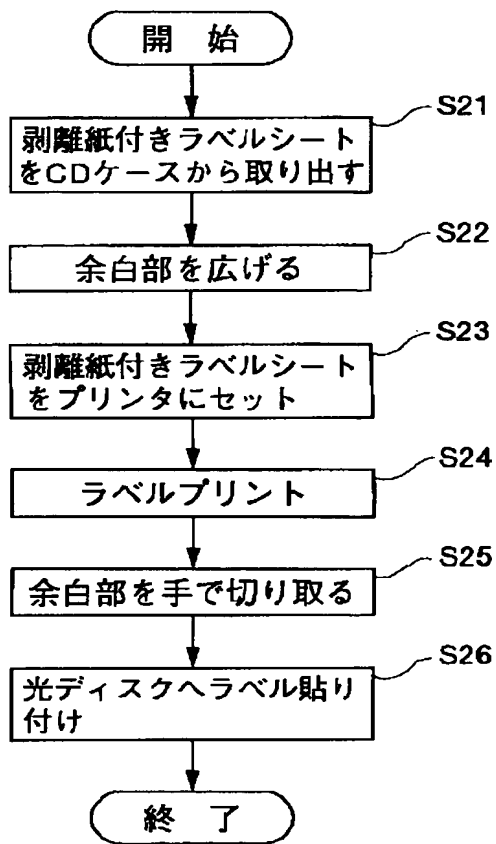
【图 7】



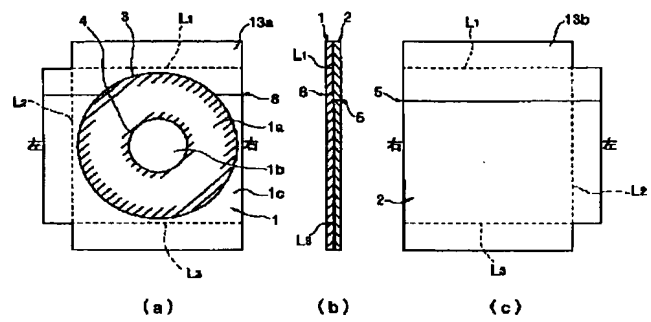
【図 9】



【図10】



【図11】



【図13】

